

痛みとは何か

歴史・文化・医学の視点からその本質を探る

ロブ・ボディス [著]

山田恵子、水沼直樹、松平浩 [訳]

定価2,200円 (本体2,000円+税)

●四六判・200頁 ●ISBN 978-4-469-28025-8

●2025年12月刊行

「痛み」は身体だけの出来事ではない!!

オックスフォード大学出版局より刊行されている「a very short introduction」シリーズの1冊「Pain」の翻訳書。私たちの誰もが経験したことのある「痛み」について、哲学・芸術・言語、そして医学をはじめとする人文科学・社会科学・自然科学の幅広い領域を横断して、生物・心理・社会の側面からその正体に迫る。

■主要目次

第1章 痛みの概念

痛みに関する語彙／概念の曖昧さ／痛みについてグローバルに考える

第2章 痛みと敬虔さ

痛みとキリスト教の実践／拷問・刑罰／美德としての忍耐／神学的な問題

第3章 痛みと機械論

デカルトと機械論／動物の痛み／痛みの知識／痛みを測定する／機械論／傷害のイメージ

第4章 痛みと文明

痛みを巡る利害関係／出産と乳児期の痛み／人種／都市型の神経過敏

第5章 同情、思いやり、共感

痛みの文脈／同情に関する知識／共感するための「配線」／文脈における共感

第6章 快楽としての痛み

痛みを見ること／神聖な痛み／痛みとセックス／性科学

第7章 現代医学と科学における痛み

侵害受容／ゲートコントロール理論／感覚の伝導路／文脈依存性の痛み／情動の重要性／鎮痛薬とプラセボ

第8章 慢性痛

問題の範囲／慢性痛の奇妙さ／幻肢痛／新たな方向性

第9章 痛みの文化

プロセス（過程）としての痛み／痛みを分かち合う習慣／痛みの数値化／経験値の浮き沈み

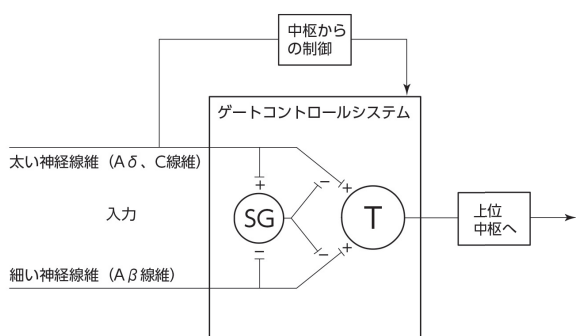


大修館書店

痛みとは何か 歴史・文化・医学の視点からその本質を探る

◇紙面見本(80%縮小)

第7章 現代医学と科学における痛み



SG : 脊髄後角にある膠様質 (substantia gelatinosa) の細胞
T : 脊髄視床路 (T細胞)

図9 ゲートコントロールの仕組み (1965年)

ろ、新しい理論では、異なる発火閾値をもつ神経が、脊髄から脳に伝達される信号の制御にどのように相互に関連しているのかという仕組みが説明できた。メルザックとウォールはさらに一歩踏み込んで、神経刺激の大きさや種類、文脈に対する脳の評価、研究対象者の感情状態によって、いつ、どの「痛み」信号がゲートコントロールを通過できるかが決定される仕組みを説明した。

加えて、痛みの一般的な理論とのギャップを埋めるのに役立つ概念も提唱された。脊髄自体から発信される信号は、末梢からの信号が停止した後でも受傷後に痛みが持続するという、あるいは痛み部位を誤認する傾向があるという、それまでは説明のつかなかった症例を説明していた。さらに、ゲートコントロールを通じて皮

123

ることに、ますます危機感をきた痛みの理論が、痛みを抑えて説明していいと考えていかに直接的な相関関係があるかを説明し、痛みの経験を調が必要とされた。

メルザックらは、1966年によって痛みの研究に「ゲート（門）」を通過する信号の複合的な「メッセ」定される。また、ゲートも果たす。この理論は、の全体的な伝達におけるによって、痛みの処理に送信する特定の機能を

第3章 痛みと機械論



図5 痛みの経路、ルネ・デカルト (René Descartes) の『人間論 (Traite de l'homme)』 (1664年) より

不滅の魂も理性ももたず、痛みを感じる能力のない単なる機械であるというその後長く続く印象を、デカルトが直接的に助長してしまったのである。デカルトの最も有名な著作である『方法序説 (The Discourse on Method)』 (1637年) では、動物は時計のようなもので、神によって設計された卓越した歯車とゼンマイで構

45

大修館書店HPで
試し読み
ができます▶



大修館書店

〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1 TEL:03-3868-2651 FAX:03-3868-2640

注文書	痛みとは何か 定価2,200円(本体2,000円+税) / ISBN:978-4-469-28025-8		ご注文数	番線印
	お名前			
	ご住所 〒			
			冊	